

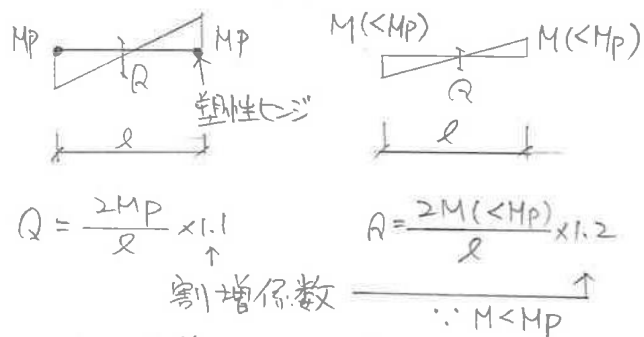
平成28年No.14 鉄筋コンクリート構造の耐震計算

1. ルー1の計算における設計基準強度による割増係数 α → 設計基準強度が18N/mm²を超える場合は考慮できる
2. ルー2-1の計算におけるせん断力の割増し → 割増した設計用せん断力 \leq 安全性確保のための許容せん断力
3. ルー3の計算におけるせん断力の割増し → 両端ヒンジとなる部材: 1.1, その他の部材: 1.2
4. ルー3の計算におけるせん断破壊と部材種別 → せん断破壊は部材の種別はFDになる

鉄筋コンクリート構造の場合

	中地震		
一次設計	<ul style="list-style-type: none"> 許容応力度計算, 使用上の支障防止の確認 (たわみの計算) 層根のま材等の構造計算 		
二次設計	ルー1	ルー2 (2-1, 2-2)	ルー3 大地震
耐震計算	<ul style="list-style-type: none"> 高さ $\leq 20m$ 壁量・柱量の確保 (1) 設計基準強度による割増係数 $\alpha (= \sqrt{F_s})$ せん断破壊防止 	<ul style="list-style-type: none"> 層間変形角 $\leq 1/200$ 高さ $\leq 31m$ 剛性率・偏心率の確認 壁量・柱量の確保 (ルー1 > ルー2) せん断破壊の防止 (2) 地震力による生じるせん断力に割増し \leq 安全性確保のための許容せん断力 (必要保水平耐力 \leq 保水平耐力) 塔状比 ≤ 4 	<ul style="list-style-type: none"> 層間変形角 $\leq 1/200$ 高さ $> 31m$ 規定に満たない 規定に満たない (3) せん断破壊の防止 塔状比 > 4 保水平耐力計算

ルー3の計算におけるせん断力の割増し



ルー3の計算におけるせん断破壊と部材種別

